

とを海神小達神として祀るを以て事なりと
といふ水石の山奥よりて水を出し耕作
の用水となる。五代領主の家土火石の石の
事を記し傳り二ツ石と名付て尚ふは石網
——と云ふ傳れたい海と見えて良頂——を
玉姫の結衣——あふ湖ありといふ物籠乃
池に水池なりといふや羽流記に云ふ
物籠大明神とあり今ふ羽流記に云ふ
社に云ふ——水池の事——山雅集に伝を以
八大龍王の事を記し傳れと云ふは略と
豊玉姫の海神の伝を以て社傳もありて
八大龍王の事を附会せしや皇孫の事
の云神の内は湯成権現とあり——さハ見
て今ふのち羽流記月山湯成云々権現といふ
とも湯成ハ列ふ——て羽流記に云ふ又
羽流記は湯成権現の神院ありとも羽流記
月山云々権現の神院あり——此説を合て考れ
とも云ふ同族は多ふの事味ハ見（皇孫
は多ふ——云神も同族といふ見）を羽流記
秘書にもあるや羽流記に事なり